

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100144		
法人名	社会福祉法人久栄会		
事業所名	グループホームいしなり		
所在地	神埼郡吉野ヶ里町石動3291番地1		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyousoyo_index=true
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年11月29日	外部評価確定日	平成29年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームいしなりのホールから外を見れば一方はベランダ、二方は広い窓で、山々、畑、田んぼ、が見渡せる自然豊かな所です。ホームの畑には季節の野菜、芋等を植え食卓に並べられます。利用者様は天気の良い時はベランダに出て日向ぼっこ、昼食会等楽しませておられます。地域の敬老会・総会・クリーンデイ等の行事にも利用者様と一緒に参加をし、施設の消防訓練の協力も積極的に行っています。近所の子供達との納涼まつりでは、ソーメン流し・スイカ割り・魚釣りゲーム等利用者様との交流も深まっています。利用者様に対しては自立支援を目指したケアを実践し、同事業所内の理学療法士による機能訓練を行ったり、デイサービスでの音楽リハビリやカラオケ・合同レクレーションへの参加も積極的に行っています。職員一同最後まで安心して頂き生きがいを持って生活出来る様に介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

12年前に民家改修型で開設したグループホームいしなりは、2年前に新築移転され、木のぬくもりが感じられる明るいホームである。施設長がこの地区の出身で、設立当初より地域との交流が活発に行われてきた。近所づきあいや地元の活動が利用者の日常の暮らしの一部となっており、地域密着型としての役割を意識した運営がされている。また地域住民を対象に認知症研修や介護教室を開催するなどの啓発活動も評価したい点である。「いくら病気になろうが、認知症になろうが、その人の気持ちを大切にして、その人がしたいことを支えていく」という理念を掲げ、利用者に「このホームでよかった」と思ってもらえる事業所を目指し職員一丸となり頑張っているホームである。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスを踏まえた理念を作り、話し合いに基づき、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	「利用者本位」と「地域密着型の役割」を踏まえた理念を掲げ、毎日唱和し、実践に努めている。また、理念を基にして、現場の職員の意見が反映された年度目標を立て実践につなげている。毎月の勉強会では、日々のケアを振り返る機会がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会に加入し、区費を払っている。地域の総会、敬老会、清掃活動に参加している。事業所のふれあい祭り、子供参加の、納涼祭り、そうめん流し等の行事に参加して頂いている。	地域密着型の役割を職員が意識し、日常的に地域と繋がりながら暮らす支援はグループホームいしなりの優れている点である。職員は地区の総会に参加し、クリーンデイには利用者ととともに、缶拾いや除草作業に参加したり、地域の老人会へ出席する等、地域の一員として自然な付き合いができています。また、高校生へ認知症研修を実施したり、ホームの栄養士が料理教室を開催するなど啓発にも力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域の方参加の介護教室、地域の敬老会時の講話など、介護のあり方の話し合いを持っている。防災訓練等の見せる介護をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会を開催し、運営実態、課題を話し合い、委員の方は、ふれあい祭り、防火訓練に参加されておられる。また研修会に参加され、発表されている。	多数の関係者が出席し、定期的に運営推進会議が開催されている。地域の理解と協力を得るため、ホームの実情を報告し、具体的な改善課題に対する活発な意見をもらうなど、メンバーの積極的な関わりがみられる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との交流を密にし、福祉サービスの問題などについて役場担当課、氣息包括センターと連携相談、会議をなし積極的なケアサービスの取り組みをなしている。ふれあい祭り、敬老会に、町長、議長、議員さん参加して頂き、連携を密にしている。	行政担当者へ、ホームの実情を伝え、困難事例等を相談し、助言を受けている。ホームの敬老会や年間を通じての行事について、行政にも案内をし出席してもらい、関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、利用者の各部屋には施錠はなく、職員による見守りを徹底し、帰宅願望には制止することなく、さりげなく、声かけし、外出時には同行する。	身体拘束廃止に関するマニュアルを作成、実践している。外部の研修へ参加したり事業所でも勉強会を開催することで、全職員が理解し、拘束しないケアに努めている。夜間、転倒防止の目的で、立ち上がり(離床)センサーを使用している方もあるが、行動を抑制するのではなく、安全に動いていただけるよう見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、高齢者虐待法に基づいて、勉強会、カンファ、研修会で学ぶ機会を持ち、利用者の虐待が見逃されないように、注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は月1回の勉強会や園内研修会に参加し、成年後見制度、日常生活支援事業についての学び、家族、関係者と話し合いを持ち、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は入居時に、利用契約書。重要事項説明書について説明を行っている。疑問点、不安を含めて理解、納得を得て、書面を渡し、後日来て頂き、話を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の綿花維持や行事で常に問いかけ、気楽に話せる雰囲気を作っている。家族会時には、アンケートをとり、玄関には意見箱を設置している。意見、要望は、カンファにて話し合い、反映している。	日頃から家族の訪問が多い。面会時には近況報告を行い、話しやすい雰囲気を心がけ、関係の構築に努めている。毎年家族会を開催し、食事を一緒にしながら意見交換を行っている。家族会の折にいただいているアンケートには、率直な意見が出されており、それを改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望、疑問を言いやすい職場の雰囲気作りに勤め、月1回のカンファにて、行事などの事実討議、反省会を行ったり、また年2回の個人面談を行い、職員の意見を聞き改善に努め反映している。	事業所内の会議やミーティングでは、管理者は、意見を言いやすい配慮をし、自由に活発な意見交換ができています。職員との個人面談もされ、人事考課の他、運営に関する職員の意見や、提案を聴く機会を作り、勤務表作成時の配慮等勤めやすい職場環境になるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務態度、業務の自己評価に基づく書金との面談により把握し、人事考課を行い、賞与に反映させ、職場の環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、外部評価を始め法人内でも、園内研修や全体勉強会を行うとともに、職場におけるトレーニングを通じて、1人1人のケアの質を高めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は勉強会を他の同業者を呼び研修、グループトークを行い交流を図っている。 またグループホーム協会の研究発表会や、家族発表会にてグループトークなどに参加し他の事業所との交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族の要望、不安な点を利用者様や家族様から傾聴し管理者、ケアマネ、職員で内容を共有し必要な支援を考察しアットホームな雰囲気や安心していただける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、関係者や管理者、ケアマネが話合いの場を持ち、当施設の方針を説明を行う。 また、施設内の見学も行い、支援方法の説明も行ってからケアプランに理解して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者及びケアマネが本人、家族様と話し合い、必要とする支援を見極め全職員との支援を共有し、法人内外のサービス利用を含めサービスに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から日常生活において教えて頂く事も多くあり、会話の中で昔行っていた事や願望を聞き利用者様と職員との自然な支えあう関係を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当施設は面会も多く、行事ごとの参加も多い。月1回は園便りにて写真つきの報告、担当のメッセージを送付し、状況報告し感想も聞き入れている。 家族会では一緒にケアプラン作成など共に支える関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちを尊重し、家族様との外出や外泊の支援も行い、地域の買い物やデイサービスの催し交流会、週1回の合同レク、敬老会への参加の支援を行い、人と場所との関係が途切れないようにしている。	本人や家族の意向を聴きながら、これまでの関係が継続するよう支援している。利用前のかかりつけ病院への受診支援、商店への買い物の他、自宅への外出、外泊等も家族の協力を得ながら支援している。地域の敬老会への出席や、同法人のデイサービスとも交流する機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを把握し、食事時、余暇時間等の座席の工夫を行い、会話しやすい環境作りや家事を行う時は作業の分担を行い利用者様同士が関われる様支えあう関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様が退所されても、ご家族様が訪ねて来て下さったり、相談に見えられる。亡くなられた利用者様の家族様には昨年の日常生活のDVDをプレゼントしたり良好な関係を築かせて頂いている。また、馴染みの職員を訪ねられ野菜などを持って来られる。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で一人ひとりの想いを職員が聞き取り本人の希望や想いを全員で共有しご家族様に確認を通して満足して頂けるように努めている。主に食物に対しての想いが今は多い様子。	ホームの理念の一つが「利用者本位」である。利用者の思いや希望の把握に努め、日常の会話からの情報も職員で共有している。今年の目標にも「希望や夢をかなえる支援」が挙げられ、外出や外食、したいこと等を聞きながら実施しているところである。また、毎日3時には利用者と職員が一緒にお茶を飲みながら、おしゃべりする時間をつくり、楽しい時間になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族、友人の方々を通じ、これまでの生活歴等の情報収集に努めたり、使われたサービス、入院時の経緯の把握、ご本人様との会話の中からも情報を引き出し皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者様の気持ちに寄り添いながら思いや心身の状況を把握できるように毎日の申し送り、異変があれば随時、ケース記録、カンファでの話合いで情報の共有と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の希望や意欲を尊重しつつ、ご家族様の意見や希望をうかがえる機会を持ち、そこで得られた情報にてカンファレンスで話合い、情報の共有と担当者の意見を反映し介護計画を作成している。	職員は利用者の担当を決めており、本人をより理解している職員が、気づきやアイデアを出し合い、本人や家族の気持ちに添った介護計画の作成に努めている。会議に出席できない家族には、面会時に意向を聴き作成し、説明している。定期的にモニタリング、アセスメントをとり、本人本位の計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきはケース記録や気づきノートに記入し、介護計画書より毎日のモニタリングの作成を行い、カンファで見直しや意見を取り入れ反映して情報の共有を図り介護計画書の見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの変化や、その時々に応じ、臨機応変に対応できるように情報の共有を行い職員全員が対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に参加して頂ける催し物を開催し来園して頂ける機会を作って交流に努めたり、地域で催される行事に積極的に参加して交流を図ったりしている。日々の日常生活を地域の一員として、自然に地域に溶け込み安心安全な日常生活を送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院を受診する際には、ご家族様の希望される病院への受診を第一に考えている。また、地域の医療機関に訪問診療を依頼し、スタッフや看護師による情報交換を密に行っている。以上のことを通して緊急時の体制を確保できている。	本人や家族が希望される医療機関への受診を支援している。事業所の協力病院からは往診を受けることができることや緊急時の対応を考え変更される場合もあるがそれは、本人や家族の希望がある場合に限られている。受診時は看護師が付き添い情報提供を確実にし、家族への結果報告もその都度行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりを通して利用者様個人の健康状態の把握に努めている。小さな変化でも見逃さないようスタッフ間や看護師との連絡・情報交換を行っている。万一の場合に迅速な処置が出来るよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際には、利用者様が安心して適切な治療を受けられるように入院先に頻りに足を運ぶよう心掛けている。また、ご家族様の意見を尊重しながら出来るだけ早期に退院できるよう医師との相談・連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期を迎えた利用者様について同意書を頂いています。ご家族様、主治医、看護師を交え担当会議を開催し、今後の取り決めや方針を共有し医療職との連携を図れるように取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方についてマニュアルを作成し、説明、同意を得ている。その段階ごとにケア関係者や医師、家族等と意向を確認しながら対応方針を共有している。終末期には夜間や緊急時にも往診をしてもらい、家族の泊まり込みも可能である。今年度は2人の利用者の看取りを行った。他の利用者の方も一緒にお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時や緊急時に的確な対応が出来るように、全職員が消防署での「救急講習会」に定期的に参加し、「緊急時の対応、心肺蘇生、人口呼吸法」等の知識や技能の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練を実施する際には多数の地域住民の方々に参加して頂き、万一の事態に備え避難介助や見守り等に協力して頂けるような協力体制を築いている。	職員だけの誘導の限界を踏まえ、地域住民の協力を得、避難誘導や見守り等、一緒に訓練に参加してもらいながら実施している。次回は消防団の協力を得ることを計画している。訓練後は反省会を行い地域の方と意見交換をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の個性に応じた支援を行う。排泄介助の際には本人様の羞恥心を損なわない様に十分に心掛ける。園便りや研修資料への使用の可否は、御家族様の同意を得、プライバシーを尊重している。	「利用者本位」を、事業所の理念としており、利用者がしたいことを聴きながら、気持ちに添ったケアを心掛けている。今回、法人の接遇研修に外部から講師を招き、利用者の尊厳について講義があり、全職員が受講した。言葉遣いや関わりについては現場で、管理者が直接指導を行うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の要求や希望を取り入れ支援を行っている。職員は和やかな雰囲気作りに努めている。利用者様とのコミュニケーションを図り意見が出るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの意見を尊重した対応をしている。日常生活に刺激を与える目的で、外食や行事参加を促し、より多くの利用者様の笑顔を引き出す事の出来る支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約2ヶ月毎の美容師の訪問にて散髪の実施をしている。希望があればパーマも可能であり、一人ひとりの個性を大事にしている。身だしなみとして男性は髭剃り、女性は爪(ネイルケア)に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力を引き出す目的で、食事の準備や後片付け等を職員と共にやっている。特に女性の御利用者様は昔を思い出されるように楽しく生きがいに繋がっている。外出時の花見等では、手作り弁当を開き楽しみながら召し上がっていただいている。	食材の買い物に利用者とは出かけたり、下ごしらえや配膳、後片づけ等、利用者ができることを一緒に実施している。栄養士が配置され、メニューに糖尿病食や、個々に応じた食事形態にするなど臨機応変に対応している。職員も一緒に会話しながら同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録は全職員が把握し徹底している。法人内の管理栄養士の献立を参考にしたり調理法、栄養バランスに十分に配慮している。一日一食玄米の摂取を通して便秘解消に努めている。園内の畑で収穫した作物を使い季節感を感じていただけるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりに応じた口腔ケアを行っています。義歯の洗浄支援も行っている。上手にやることの出来ない利用者様には仕上げるのを介助を行いなるべく自力で行っていたできるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、定時のトイレ誘導を行っている。また失禁やパットの減少に努めている。	排泄チェックを行い、一人ひとりに応じたトイレ誘導をしている。日中はトイレで排泄してもらうよう心掛け、自立支援に努めている。トイレでの排泄により、紙おむつやパットの使用が減ったことや、身体機能の向上にもつながった事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1食玄米や、乳製品を取り入れ、その人に適した食事形態(ミキサー食等)を取り入れている。水分は必ず取るようにしなるべく薬に頼らないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の状況、要望で実施。入浴しない日は清拭や、足浴を実施し、清潔保持に努めている。	基本は一日置きの入浴を計画しているが、希望があれば毎日でも入っていただくこともある。現在は断られる場合が多く、誘導の工夫でなるべく入っていただくよう努めている。特殊椅子の導入により、重度の方でも気持ちよく入っていただいている。また、季節湯(ゆず、しょうぶ湯等)で楽しみのある入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は音楽リハビリ、ドライブなど活動的に過ごしていただく。利用者様の体調や状況により、休息していただく。季節に合った温度、湿度、空気洗浄、寝具の調節をし入眠を促している。寝具は週1回又、汚染時に交換し清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様各人が使用している薬の目的、用法、副作用などについて各職員に伝達し、またナース記録等で各職員等がその薬の内容を把握し誤解がないように支援している。又、症状の変化の確認に努め医師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の生活歴や残存能力を活かした家事等や、歌や体操等のレクリエーション、誕生会、外食に参加し楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月1回以上は外出する機会を設け、買い物、散歩、季節の行事見学を実施。お弁当を持っていったり、店で外食したりしている。	日常的に散歩や外出支援をしている。同法人のデイサービスでの音楽リハビリやカラオケ、合同レクリエーション等、毎日外出の機会がある。参加する楽しみもあるが、移動や車の乗降は筋力維持につながると、職員は考えて毎日希望を募っている。その他買い物や季節ごとのドライブ、外食等外出の機会が多い。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持すると安心される方のみ、自己管理して頂く様にしていますが利用者の能力に応じて本人が買い物できるように職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望に関しては本人の希望に添えるように対応。手紙、年賀状は利用者の能力に応じて、作成、代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には転倒防止の為に手すりを設け、清潔保持の為に毎日清掃を実施、月一回炊事場、リビング、風呂場等の清潔を保つ為の清掃を決めている。季節の花を活け季節感を味わっている。	2年前に新築されたホームは広々として、リビングは車いすでも自由に移動できる。木材がふんだんに使用され、落ち着きがあり、明るく清潔感が感じられる。窓からの眺めは四季折々の自然豊かな風景が見渡せる。ウッドデッキも広く、風を感じながらお茶の時間を楽しまれている。リビングにはソファが配置され、個々に居心地の良い場所で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごして頂く利用者の輪に職員も参加し利用者に快適に過ごして頂くと共に体調変化にも配慮する。面会の時には必要に応じてリビングのテーブル又は居室で面会をしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室が分かる様に顔写真を掲げている。居室の持ち込みは愛着を持たれていた品物を自由に制限せずに居心地良く過ごせるよう配慮している。	入居時には、使い慣れた馴染みの物を持参していただくよう説明している。家具等の持ち込みは少ないが、写真や位牌を持参している方もある。職員は居心地の良い部屋づくりのため、手作りの季節の貼り絵や居室入口に似顔絵をかけるなどで温かい雰囲気作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等への手すりを設け安全に移動出来る様に配慮している。浴室は電動椅子により安全で快適な入浴が出来るよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない